

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2791600022		
法人名	有限会社 コミュニティーハウス		
事業所名	グループホームめいの家		
所在地	大阪府吹田市五月が丘北6-12		
自己評価作成日	平成 23年 3月 15日	評価結果市町村受理日	平成 23年 5月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月の催しは、ほとんど地域自治会と共に行っています。広く開かれたグループホームでありたいと願い、積極的に地域に開放し、交流を持っています。また今年からは、自治会と協力し、バザーや子供会の催しにも参加することになっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2791600022&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にあった独身寮を改修し、1階はデイサービス、2・3階はグループホームとして運営しています。開設当初から積極的に地域との関係作りに取り組んでいます。数多い行事は、地域自治会にも案内し、大勢の地域住民の参加があります。駐車場のタコ焼きは子どもたちにも喜んでもらいました。開設から5年たち、今では子ども達がトイレを借りてホームへ駆け込む程、地域に溶け込む存在になっています。地名の五月ヶ丘から命名した「めいの家」にも、地域と共いの思いを込めています。「心豊かに暮らしていこう」の運営方針のもと、『今日の希望を明日にのばすな、今この時を大切にしていこう』との思いを施設長や職員が共有し、毎日の支援にあたっています。『出会った全ての人の夢を叶え続けたい』と支援している職員の表情は生き生きとしています。食事が楽しみなものになるよう工夫し、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしています。寿司職人の経験を持つ厨房職員によって、握り寿司や各種鍋料理等、メニューも豊富で利用者に喜ばれています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 4月 9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根指し、心豊かに暮らしていこう！」を理念としています。「ここに来てよかった」「あなたに会えてよかった」「生きていてよかった」いろんな「よかった」を応援し、地域の自治会、子供たちの協力を得て、夢叶う明日に向けて取り組んでいます。	地域密着型サービス事業所として「地域に根ざし、心豊かに暮らしていこう」を理念としています。「『ここに来てよかった』『あなたに会えてよかった』『生きていてよかった』いろんな『よかった』を応援します。穏やかでやさしい風の吹く町、ここ五月ヶ丘から、出会った全ての人の夢を叶え続けます」の運営方針を職員間で共有し、支援にあたっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に加入し、役員も務めています。地域主催の運動会のリレー参加、五月ヶ丘の夏祭り出店等積極的に参加しています。又2ヶ月に一度、1Fデイサービスフロア・駐車場で、地域の方々にも参加してもらい、お祭（たとえば4月春祭、6月あじさい祭、8月夏祭、11月文化祭、12月クリスマス会・お餅つき等）を開催しています。開設時より飼っている犬の散歩を通じてご近所の方々との交流も多くあります。</p>	<p>開設当時から、積極的に地域との関係作りに取り組んできました。春祭り、夏祭り、クリスマス会、お餅つき等、盛りたくさんの行事は、自治会を通して地域にも案内し、多くの地域住民の参加があります。地域の行事にも、積極的に参加しています。職員の送別会に地域の方が参加して別れを惜しんでくれたこともありました。利用者が一人で外出していた際に、地域の子どもたちが知らせてくれたことでもあります。愛犬の散歩を通して近所の方との交流も深まっています。今では、子どもたちがトイレを借りにホームへ駆け込む程、地域に溶け込む存在になっています。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>自治会長、民生委員と共に地域社会で暮らす高齢者をお誘いし昼食に招待したり、自治会会合を、ホームデイサービスフロアで開催することもあります。又、事業所内で介護実習や車イスに乗ってみよう等の取り組みもしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に一度に留っていたのですが、今年は夏祭り、餅つきの行事前に、地域の方やNS、家族と話し合うことができました。施設の行事を軸に地域・医療等さまざまな視点から話し合っています。	地域住民や家族と話し合いの場は多くありますが、運営推進会議としては、夏・冬それぞれ1回開催しました。会議では、主に行事について話し合い、地域への協力をお願いしています。今後は、会議の回数を増やすことを検討していきます。	運営推進会議は、外部の方たちの目を通して事業所の取り組み内容や改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得るための貴重な機会です。今後は、2カ月に1回、もしくは年6回開催できるよう検討することが望まれます。また、市職員にも参加してもらい、協力体制を整えるよう努めることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回のグループホーム部会への積極的な参加、市主催の介護フェアへの参加等を行っています。又、市担当者、近市グループホーム職員との情報交換を行い質の向上に取り組んでいます。近隣のグループホーム等には、焼き芋など催しの時にお手紙をだしたりして、お誘いしたりもします。	市の担当窓口には、1週間に1回ほどの割合で足を運び、話をしています。今年度から施設長が、市グループホーム・特定施設部会の副会長に就任し、同業者とのつながりを更に広げています。自主的運営のケアワーカーズクラブを市内の同業者とで作り、勉強会や情報交換など行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意味を理解し、禁止の対象となる行為を考え、話し合う機会を持っています。面会時に家族とも話し合いの機会を持っています。	「身体拘束ゼロの実現を目指します」と宣言しています。身体拘束や高齢者虐待の研修も実施しています。玄関の鍵は施錠せず、自由に出入りできる状態となっています。見守りにも注意し、利用者の安全を守っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待事例から考える外部研修に参加し、それを又、内部研修として全職員に伝えてもらいました。法制度を理解し、全員で意識を持って取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度利用中の利用者を受け入れているので、社会福祉協議会職員と協力し、職員との話し合いを常に持っています。全職員に制度を理解してもらえよう話し合いをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を見ていただき説明しています。理解を得られるまで細部に渡り説明し、幅広い情報の提供を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会発足に向けて動いています。現在は個別に管理者・リーダーが面会時に声をかけたり、手紙・電話等で、利用者ご家族からの意見・苦情を聞き取り、職員にはミーティングなどで情報提供し、問題が発生した場合は、早期解決を心がけています。</p>	<p>2ヵ月に1回、各フロアに「メイズタイムズ」の便りを家族に送付しています。写真や担当職員からの報告・メッセージで日頃の暮らしぶりがわかると家族からも喜ばれています。一泊旅行を始めとする行事にも家族の参加協力を得ています。「これからもよく笑い、元気であって欲しい」と書かれた年賀状の家族の願いを、即介護計画に反映するなど、家族の思いも尊重しています。</p>	<p>今後は、苦情だけではなく、更に意見や要望を家族や利用者から表出してもらえよう、場面作りについて工夫することが期待されます。また、今後は意見や要望を出す機会が少ない家族に、テーマを決めて要望を聞くよう努められてはいかがでしょうか。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>主に職員会議・各フロア会義で意見を聞くようにしています。又、管理者は個別に職員と話し合いも行っています。</p>	<p>施設長は職員からの提案を一方的に否定しないようにしています。「去年の自慢・嬉しかったこと」「去年の反省・つらかったこと」「今年の目標・夢」「自分のお仕事自慢」についての内容で自己評価を実施し、職員の個性・意見を尊重しています。行事の際に披露するパフォーマンスの練習も、職員のよいコミュニケーションの場になっています。職員早期退職の課題に対して、新人研修の見直しも検討しました。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>今後、職員個々の努力や実績等を把握、査定することが出来るよう基準作りを進めており、各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回、内部研修実施。内容はさまざま、介護技術・医療・緊急対応・食事・入浴について等々です。又、職員より希望のあった研修内容も取り入れています。他に新人職員に対しては新人研修を実施しています。職員一人一人に研修ファイルを配布、外部研修を受講した場合には記録を作成し、職員会議にて発表し内部研修としています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市が主催するグループホーム部会・ケース検討会議・地域連絡会議・担当者会議等に参加し、情報交換を行っています。又、市内のグループホームとの交流を深めるためケア・ワーカーズクラブを開催しています。他施設と合同の介護技術演習も行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時より担当になるCWが細かく、本人の希望・夢・生活歴を聞き取り、ご家族と共に本人の安心を確保するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い・考え方・希望問題点等を聞き取り、日々の生活を共に考えるようにして、信頼関係を築く努力をしています。何でも言い合える関係作りを目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入念な聞き取りをします。常に必要なことは何か、最優先することは何かを、広い視点で考えるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自慢できること・得意なことは、皆に教えてもらい、苦手なことは、皆でサポートする関係を大切にします。「やってみよう」という気持ちで取り組めるよう、楽しめるよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の度にお知らせし、一緒に楽しむ機会を作っています。身体状態、生活全般の不安・質問等については、電話や面会時に聞き取りを頻回に行うようにしています。信頼関係を築いていく努力をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	部屋には、自宅で使っておられたタンスや布団、大切にしておられた物や写真を持って来てもらうようにしています。友人や自宅近所の方にも行事をお知らせしたりします。面会時間は特に設けず、気軽に立ち寄ってもらえるようにしています。	身寄りのない利用者に、友人が訪問してくれているケースがあります。住んでいた家の片づけや衣替えに職員が同行し、近所の方と交流を図る利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつも利用者同士の仲に入っているわけではなく、個々の関係を大切に見守っています。又、コミュニケーションが行き違わないよう援助することを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養への転所の場合がありました。休みの日に職員がうかがったり、季節ごとに手紙を出したり、家族にも定期的に電話やメールで様子をうかがっています。又、何かあった時には、相談してくれるよう常に伝えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートにある項目を、担当職員がゆっくり聞き取る所から、一人一人の夢や、これからの生活に対する希望を探し、夢叶うよう支援しています。	事業所独自のアセスメント様式により、利用前の生活習慣・ライフヒストリー・自慢できること・得意なこと・楽しかったこと・辛かったこと等を把握し、支援に活かしています。また、日々の関わりの中での気づきや発見は連絡帳に記入し、職員で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートにある項目を担当職員がゆっくり聞き取り、見えてきた生活歴・性格などから、家族と共に考える時間を持つようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全員、日々の過ごし方はさまざまなので、一人一人に対応できるよう心がけています。又、日々訴えもさまざまなので個別に聞き入れる余裕を持ち対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本筋は「本人の夢を叶えること」。家族の要望も含め、今一番大切なこと、今一番必要なこと、楽しく暮らすための課題を常に探しています。</p>	<p>「夢を叶えること」の運営方針のもと、今日の希望を明日に延ばさないよう、今この時を大切にすることが、介護計画作成の指針になっています。介護計画は、ケース検討会議で話しあったことを基本に担当者が作成し、計画作成担当者がマネジメントしていきます。職員と家族がカンファレンスを行っています。担当者はそれぞれ、利用者のことは一番知っているという責任感を持っています。見直しは3か月毎に行います。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録はもちろん、それぞれの階の連絡ノートを活用しています。又、問題がある場合は、早急に集合し、全員で話し合うようにしています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ターミナル期の家族の宿泊、行事への参加、近隣参加、行きたい所へ、行きたい時に行きたいと言えるように、どんな訴えでも伝えることのできる、わがまま言える居場所作りをしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーマーケット・お好み焼き屋・喫茶店など出来るだけ歩いて行きます。犬の散歩にも同行してもらい、地域の方との交流も大切にしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日の午後、往診ドクターの診察があります。又、精神科・皮膚科・眼科等は地域のかかりつけ医を作っています。家族と職員が同行し、安心して受診できるよう配慮しています。	本人や家族の希望があれば、今までかかりつけの医療機関へ受診することができます。一週間に1回、事業所の主治医の往診があります。医療連携体制がとられており、24時間訪問看護の協力が得られます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携の医師と訪問看護師との連携と、「いつもと違う」という介護士の状態変化の気づきを大切に、少しでも早く適切な診察が受けられるように、一丸となって努力しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携医の最終判断により、入院を決定することが多いですが、入院後は家族と職員が常に連絡を取り合い、入院先の主治医の意見・経過等も一緒に聞き、一日も早い帰所に向けて、積極的に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に関しては、家族と話し合いを重ね、Dr・NS・CW・家族（本人）同席の元、方針を決定しています。そして、職員全員で（ユニットの違う職員も含）看取りを考え、進めます。又、延命するかどうか、看取りについての希望確認書を入所時に家族に実施しています。希望確認書の変更は随時可能です。</p>	<p>利用契約時に、延命の意向や看取りについての考えを家族に聞いています。これまでに事業所で3名の方を看取りました。ターミナルケア実施の時は、管理者等がいつでも呼び出しに応じることで、職員に安心してもらっています。ターミナルケアの支援をしていた利用者が元気になられ、日常生活に戻られたことを職員一同喜びあった事例もあります。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>2年に一度、消防の方に来所していただき、救命講習をお願いしています。又、内部研修として、訪問看護師による「救命」「脳卒中」についての講義も行いました。又、定期的に緊急時対応についての内部研修を実施予定です。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2度、避難訓練をしています。夜間・日中を想定し実施しています。職員は全員、昇降機の取り扱いができますように、又、全員昇降機の体験をしています。</p>	<p>年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施しています。災害発生時マニュアルも作成しています。非常時の水・食料品の備蓄もあります。</p>	<p>火災や災害時には、地域の協力が必要になることを考慮し、今後は運営推進会議での話し合いや、一緒に避難訓練を行うなどして、協力体制を作られることが期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いを実現すべく、情報収集し、常に何を願い、求めているかを知るための努力をしています。	利用者の尊厳を守る倫理についての研修も実施しています。利用者や家族だけではなく、職員を含め、すべての人を大切にしていこう、施設長の考えを浸透させています。日常のケアの中で、陰部のトラブルに対してのケアは、同性で行い羞恥心に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	忘れてしまうことが多くなってくると、なかなか、以前していたことや、したいことが言葉になって表れません。雑談などしながら、思っていることを引き出すことも大切ですが、今までの生活の中で、習慣としていたことも大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、起きて来られた方からで、特に時間は決めていません。昼食は12時に席につきますが、それも決まりはありません。夕食も、お腹がすいたら…という感じです。入浴は入りたい時間に、日にちも特には決めていません。ベースになる個々の生活を把握し、それぞれの日常と関わりをゆっくりと過ごしてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分で洋服を選んでもらうことで、本人の好きな物を理解し、一緒におしゃれを楽しんでいます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を軽いもの、使いやすいものにしたり、自助具を使用し、個人の力を活かしながら、職員も一緒に食べるようにしています。	材料はデイサービスで発注し、各階で調理しています。行事食の際はデイサービスにて皆で食べています。寿司職人の経験を持つ厨房職員によって、握り寿司や各種鍋料理等、メニューも豊富で利用者に喜ばれています。調理や後片付けも利用者と共にいき、餃子屋で働いていた利用者が、餃子の皮を見事に包み、喜びあったケースもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表は日々つけています。食意が低下したり、体調の悪い人は、食事量も記録しています。水分は、好みがあるので、その人それぞれに応じた飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週木曜日、訪問歯科医・歯科衛生師に口腔内を清潔にしてもらいます。又、方法等を教えてもらい、日々の口腔清拭はCWが手伝っています。個々で、歯ブラシの形状も洗い方も違うので、できない所はCWが手伝い清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ着用の方には一人もいません。全員下着はパンツ着用、尿漏れのある方はパンツの中にパット使用、尿意のない方・定かではない方は随時トイレへの誘導を行っています。気持ちよく日々を暮らすため、排泄の工夫は一眼となってやっています。	トイレでの排泄を基本とし、利用者は全員、布パンツを使用しています。入居時、紙パンツを使用されていた利用者も、布パンツを使用することができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まず、食物繊維の多い食事、足りない所は、イージーファイバー・きなこ・黒ゴマ・オリゴ糖・ヨーグルト等を楽しんで食べてもらうようにしています。適度な運動（散歩・買い物等）の促し、十分な水分摂取を意識して行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていません。週に2～3度は最低入ってほしいと思って行っています。意思決定できない方は促しますが、決定できる方においては入りたい時対応です。	週に2～3回の入浴をしています。入浴剤を変えて、入浴を楽しんでもらう工夫をしています。日曜日には、デイサービスの浴槽を借りて、皆で入浴を楽しむこともあります。利用者の誘いで、職員も一緒に入り楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	意思決定できない方においては、午前・午後と休息時間をもうけています。夜は1h/1回巡回し、眠れない夜が続けば、ホットミルクなど一緒に飲んだり、話をしたりして過ごします。意思決定できる方は促しで、後は本人の生活習慣に合わせています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がどんなに怖いことかをホームDrから話してもらい、利用者の薬に興味を持てるようピルブックも各階に置き、処方箋も必ずしっかり眼を通し、薬に変更があった時には個別記録に記載し、周知徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	下膳の手伝い、洗濯ものをたたんでもらったり、個々の役割があります。そして、コーラなどの嗜好品や、かるたなど好きなことを楽しみながら、意欲をだせるように考えています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画が必要な場合には入念な会義をしますが、日々、今日は何をしよう、どこへ行こうと考え、実施することが生活と考えますので、特別なものはありません。ただ、家族の協力は不可欠です。前回指摘された、外出・面会状況の記録は、業務日誌に記載するようにしています。	愛犬の散歩や花見、ピクニック、外食等、外出の機会は多くあります。映画が好きな利用者が、職員と一緒に観に行くこともあります。年1回、利用者全員で一泊旅行を実施しています。昨年は琵琶湖、今年は淡路島を計画しています。一泊旅行には家族も参加して一緒に楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理し、領収書で月一度家族に報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙はや電話はあまりありませんが、職員が家族あてにかけた時には本人にもかわっています。家族から贈り物が届いたとき、記念日、体調不良時、体調が良くなった時、外出予定が決まった時、買い物をする時、家族に会いたい、話したいと訴えがあった時などです。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが使いやすいように配慮する努力をしています。たとえば、椅子の座面を調整したり、椅子を座りやすいものに変えたり、入浴時の椅子も個々に使いやすいものにしていきます。利用者と相談しながら窓の開閉をし、TVやCD・DVDをつけるようにしています。	利用者一人ひとりが過ごしやすい環境作りに工夫しています。くつろげる場所にソファーやリクライニングソファーを置いたり、食事用の椅子をそれぞれ食べやすい椅子に配慮したりしています。リビングには、思い出の行事や利用者の笑顔あふれる写真を飾り、利用者・職員が楽しんでいます。また、利用者の好みの本を数多く揃えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで一人になることがあるとすれば、皆がご自分の部屋に帰ってしまった時だけです。CWと2人で話したい、利用者同士内緒で話をしたい、一人になりたい時は、リビング横の事務所か、それぞれのお部屋を使っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で使っておられたダンス・仏壇等を持って来られています。今までの生活で、布団で寝ておられた方には、毎日、布団を敷き対応しています。それぞれの方の今までの生活を考えながら対応しています。きれいに片づいているだけが良いと思わないので、いろいろな所に支えがある、物のいっぱいある部屋が落ち着く方もいます。それぞれの方の今までの生活を一緒に考えています。	利用者は、使い慣れたダンスや鏡台、古いミシンなど持ち込んでいます。職員は、これまでの生活を大事にした居室作りに配慮しており、仏壇を持ってきている利用者もいます。居室入り口にある手作りの名札は、それぞれ利用者の身長の高さに掛け、見やすく工夫しています。季節の生け花を飾り、楽しんでいる利用者もいます。居室の床は、フローリングが一般的ですが、利用者の希望で畳の居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の出入口は少しスロープになっているし、浴室は段の大きな階段になっていたりするので、原則バリアフリーではありません。その度声をかけながら生活しています。また、スイッチカバー・カーテンを変更し、より安全に生活できるよう工夫しています。特に個別の道具の工夫はありませんが、「ワーカーがそばにいること」「ワーカーが声をかけること」が安全に繋がればと思います。		